

### フィオーレ移住第1号 ～共に人生という航海を



愛犬ハリー：ご主人同様飼い始めてから15年ほどこへ行くにも一緒。



1丁目  
及川 敏子

「移り住んだ年に大雪が降って、人と二人スキーでふもとまで(フィオーレ北口)降りて行ったのー登ってくるのは大変だったけど。家がなかったからできたのね。フッフッ。」及川敏子さんは懐かしそうに笑う。フィオーレの第一号住人だ。平成4年、船乗りだったご主人と移り住み、およそ二年間、周りに一軒も家が建たなかった。ゴミステーションも、もちろん自治会もない。それでも友達や家族が遊びに来たり、新生活を満喫する内あつという間に時は過ぎ、寂しさを感じる暇はなかった。ある日、地元の方がフィオーレに一軒だけぼつりとあるのが気になるとやってくる。声をかけてくれた。そこからスタートした交流は23年経った今も続く。誘われればどんなことも乗っけてみる。誘われたのがきっかけで現在も力を入れているゲートボールやグラウンドゴルフの仲間には農家の方が多い。それも栃木になじめた理由のひとつ。自然を相手に生きる農家が栃木での暮らしを教えてくれた。草刈り機など農機具の使い方に始まり、気候

や習慣、郷土料理、地場野菜の調理方法。また、同じ食材で及川さんが知っている別の料理を作っておすそ分けもした。毎日楽しく過ごした。しかし、その間ずっと順風満帆だった訳ではない。「フィオーレに来てから本当に色々あった。その一言に集約されるように波乱万丈だった。ご自身の乳がんに始まり、ご主人の胃がん、脳卒中、そしてまた子宮がんのご夫婦を立て続けに病気が襲った。ご主人の病気を境に常に夫婦一緒に行動するようになった。溪流釣り、グラウンドゴルフにゲートボールと、元々多趣味だったご主人が病気でできそうだと始めたものまで全て付き添ったが、いつの間にか及川さんの方がのめりこみ本気になった。いつ倒れるかわからないご主人とそれを支える及川さん。一緒に行動する内たぐさんの人となりが、ご主人の宮がん発覚後には彼らが病院のことや身の回りの世話をしてくれた。こちらで縁あって仲良くしてもらいました。本当にありがた

い。自治会がなくても地でそれをやっていた。本来の在り方ではないだろうか。だからなのか、困難にこれだけぶつかっていても「辛かった。」という言葉はひとつとも出ない。むしろ周りの方たちへの感謝、何よりご主人との楽しい思い出を語るイキイキとした表情が印象的だった。「不便というけど私たちはここに何も無い。当時を知っているから、どこへ行くにも車で行かなきゃならぬのも、そういうものだと思う。不便だからこそお互いを頼る。これで便利で何でも揃っていたらお互い別々の場所に出かけて一緒に過ごさなかったかもね。」お互いの存在があったから置かれた状況も前向きに楽しんだ。船乗りは長い航海の中で制約された環境下を過ごす。大自然に挑むのではなく自然を理解し、海を共有するすべての人と協調し助け合う。その信条はまさにご夫婦のフィオーレでの暮らしそのものであり、ご主人が亡くなった今も及川さんを支えている。「フィオーレに少しでも長く住みたい。そのひとことに全ての答えが詰まっている。」

記事：大河原千晶



さくら市ミュージアム

## さくら市ミュージアムがリニューアル

さくら市ミュージアム—荒井寛方記念館—が今春「さくら市の歴史と文化」をテーマに全館リニューアルオープンしました。

荒井寛方室、野口雨情コーナー、鋸展示室(場所移動)などの展示はそのままに、工事により展示スペースを増やし、全体でより多くの作品を楽しめるようになりました。また、新たに市民ギャラリーが設置され、さくら市民の作品を展示できるギャラリーとして様々な企画が現在準備中です。そして、自然・歴史・文化展示室では喜連川の歴史を紹介する展示を増やし、よりさくら市全体の歴史が身近に感じられるようになりました。さくら市は歴史的または文化的に多くのものを有している地域です。是非一度この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。



市民ギャラリー



企画展示室

鋸展示室1

鋸展示室2



展示ホール

#### schedule

- 企画展「花のいろ 風のおと 特選日本画収蔵作品展」5/23(土)～6/28(日)
- 市民ギャラリー 「十二支大絵馬展」 5/30(土)～6/7(日)
- 企画展「ことばのちから —相田みつを展」 7/12(日)～8/30(日)



荒井寛方作品 鬼子母



野口雨情コーナー



写真に見るさくら市の近現代



さくら市の自然

#### information

- 観覧料 : 一般300円、高校・大学生200円、小・中学生100円
- 開館時間 : 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 : 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日(土・日を除く)、第3火曜日、年末年始
- 展示替・燻蒸期間(不定期)
- TEL 028-682-7123 URL <http://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/site/sakura-museum/>



江戸時代後期喜連川御城